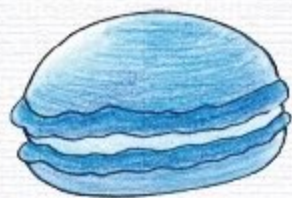


えこだの 森林の

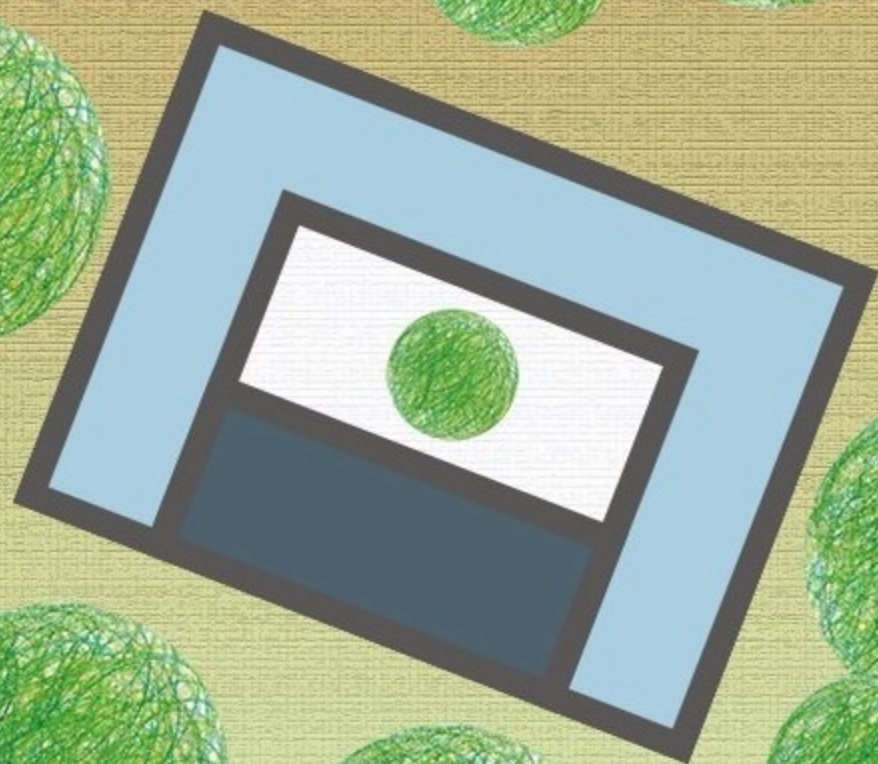
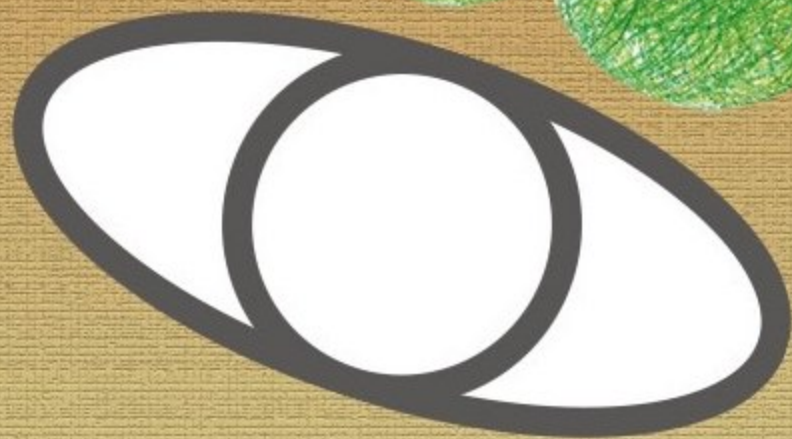
パーティーパーティー



ここはえこだの森。

たくさんの人が集まる、活気あふれる豊かな森。

えこだの森にはニチゲイ王国とムサシ王国という2つの国があって、
なにやら楽しい計画をしているみたい…



「ゲーサイヌさん。今度、秋の晴れた昼間にティーパーティーをしませんか？」

「それは素敵な提案ですね、シラキジさん。

せっかくなら、お互いにもてなし合いましょう！」

「良いですね！ムサシ王国みんなで張り切って準備します、楽しみにしててください！」

「こちらこそ、楽しい時間を過ごしてもらえようがんばります！」

どうやら2つの王国でティーパーティーを開くみたい。

いったいどんなティーパーティーになるのかな？



ニチゲイ王国では…

「うーん…ティーパーティーなら、お菓子はクッキーが良いんじゃないかな？」

「そうですね。それから、装飾に力を入れて、ニチゲイらしく芸術的にしたいです！」

「たしかに！アートをテーマに、ムサシ王国に楽しんでもらおう！」

「決定！じゃあ早速、作業に取り掛かりましょう！」

「「おー！」」



ぬったり...



つくったり...



くみたてたり...



一方その頃ムサシ王国では…

「ぼくたちの強みは、たくさんのゼミがあることだね…。」

「それなら、それぞれのゼミでお菓子やお茶を用意して、バラエティに富んだティーパーティーにしましょう！」

「それいいね！絶対楽しんでもらえるよ！」

「よーし、みんなでがんばるぞー！」

「「おー！」」



はなしあったり…



しらべたり…



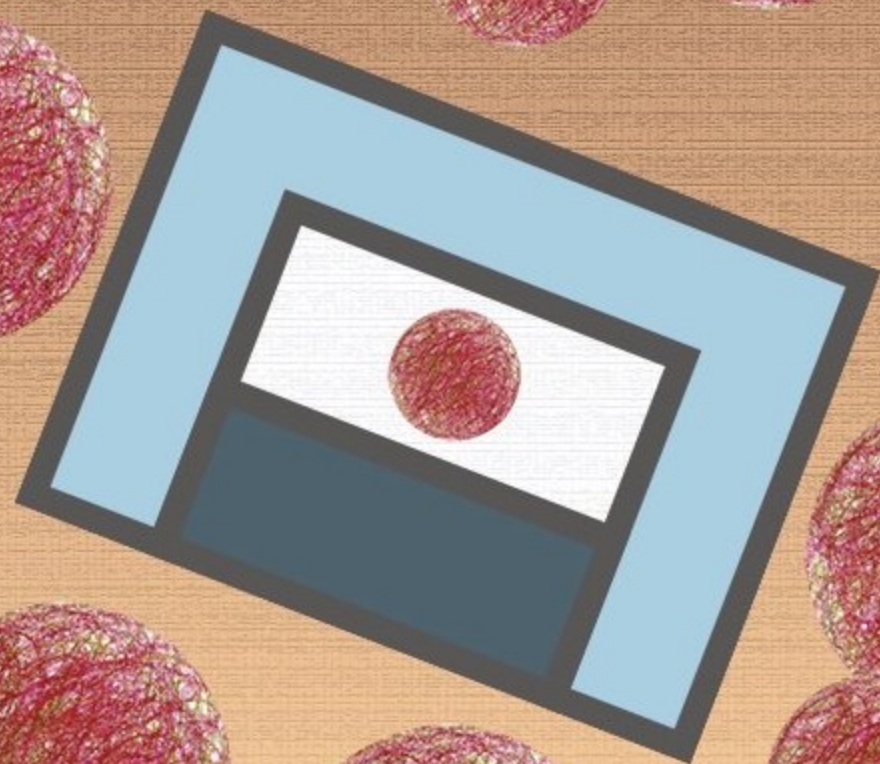
はこんだり…



木々は赤く色づき、涼しい風の吹く晴れの日。

ついにティーパーティー当日！

どんなお菓子や飾り付けなのか、わくわくするね。



「ようこそムサシ王国のみなさん！今日はめいっぱい
楽しんでってください！」



「もぐもぐ…おいしい！飾り付けもとってもきれい！
さすがニチゲイ王国だね！」
「みんなでいっぱい頑張ったんだ。アートとお菓子を
楽しんで！」



「ようこそニチゲイ王国のみなさん！素敵な時間をお過ごしください！」

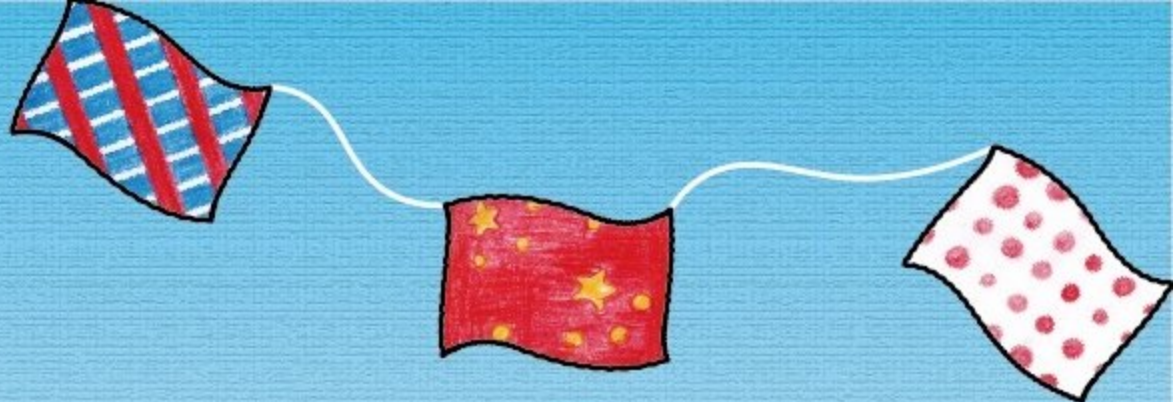


「わあ、おいしい紅茶！」

「それはイギリスのお茶なんだよ。」

「へえ、そうなんだ！こっちには日本のお茶がある！
たくさんの国のティーパーティーに来てみたい！」

「ほかの国々のお茶やお菓子も用意しているから、
是非楽しんでってね！」



楽しい時間は過ぎ、あっという間に空は夕暮れ。

「今日はありがとうございました！」

「こちらこそありがとうございました！また来年も開催しましょうね！」

「もちろん！」

2つの王国の仲もより一層深まり、えこだの森には今日も笑顔が溢れています。

